

作成日：令和8年6月20日

学校法人 神戸滋慶学園 神戸医療福祉専門学校中央校
令和7年度第1回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：藤木里奈

- 1 開催日時 令和8年6月20日（土）15時30分～17時00分
- 2 開催場所 神戸医療福祉専門学校中央校を拠点とするリモート会議
- 3 出席者 学校関係者評価委員
加藤 直樹 業界代表（協同組合兵庫県保険鍼灸師会 副理事長）
橋本 薫子 業界代表（神戸市老人福祉施設連盟 理事）
五味 仁志 高校関係者代表（兵庫県立須磨友が丘高等学校元校長）
藤森 和佐 （株式会社プライム 事業本部長）
内野 雄輔 （SOMPOケア ラヴィーレ六甲 ホーム長）
横山 誠也 （須磨わだち整骨院 院長）
久野 由美子 保護者代表（神戸医療福祉専門学校中央校）
島 誠一 近隣関係者代表（ANAクラウンプラザホテル神戸
セールスアンドマーケティング部クラウンイベントディレクター）
欠席者 林 大祐 業界代表（特別養護老人ホーム花みさき 施設長）

学校側出席者

川口 延子	神戸医療福祉専門学校中央校	校長
黒田 尚子	神戸医療福祉専門学校中央校	事務局長
由良 和也	神戸医療福祉専門学校中央校	介護福祉士科 学科長
前田 見太郎	神戸医療福祉専門学校中央校	鍼灸科 学科長
藤木 里奈	神戸医療福祉専門学校中央校	介護福祉士科 介護福祉士科主任

4 会議の概要

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員ご紹介
- (3) 令和7年度自己点検自己評価
- (4) 講評・意見交換

5. 議事録

(1) 校長挨拶

6月4日例年より早く近畿地方に梅雨入り宣言がだされました。ちょうど台風6号の上陸直後でしたので長雨が続くかと思われましたが、晴天の日が続いておりました。気候こそ最大の外部環境の一つだと考えていますが、外部環境が変化すれば内部環境は変化を余儀なくされます。社会組織の中でも学校はその基準が高く求められる学生の居場所です。恒例の地域やスポーツ行事も大きく舵をきりつつある中、生きがいや幸福度等人としての尊厳に直結する人材の輩出を目指す神戸医療福祉専門学校中央校はどうあるべきか、学校関係者評価委員の皆様には様々な観点からご意見をお聞かせ頂きますようお願いいたします。

(2) 委員ご紹介

(3) 令和7年度自己点検自己評価結果報告及び学校関係者評価

本校が実施した自己点検・自己評価内容を下記10項目について説明後、各委員から評価していただいた。

1. 教育理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

＊自己評価・学校関係者評価の結果表参照

（４）自己点検・自己評価に関する意見交換

久野委員：学校の教育方針やさまざまな教育活動をこの委員会をとおして理解させて頂きたいと思います。

島 委員：資料を拝見させて頂きましたが全ての項目において、適切に運営がされていると思います。

橋本委員：生成ＡＩに関しては、ＩＴリテラシーの教育に力を入れておられると思いますが、生成ＡＩの活用については慎重にする必要があると思います。私の法人内でも検討しているところです。規制をし過ぎると目的である業務の効率がされないですし、難しいところだと思います。

黒 田：教職員に関しては、ＩＴリテラシーの研修を実施しています。総論、概論、そして成功事例の共有を目的としています。生成ＡＩアプリについては慎重に検討し、個人情報に絶対に入力しないといったルール設定をしております。学生、教職員共にＩＴリテラシーテストを年１回受験しています。

内野委員：どこの業界もそうだと思いますが、介護業界も今大きな転換期を迎えているところです。今までは介助ができる人というので評価される時代でしたが、ＡＩやロボットの普及もあり、記録や見守り、情報共有などはデジタル化されています。だからこそ人には人しかできない共感する力や傾聴する力が必要だと思うのですが、今もペン字検定は実施されているのでしょうか。また、コミュニケーション力の向上などのカリキュラムがありましたら教えて頂けますか。

由 良：ペン字検定は継続して実施しています。コミュニケーションに特化した授業に関しましては「演習ゼミ」で、専門的な知識、技術だけでなく、得意な科目をもって卒業してもらうための授業を取り入れています。また「人間関係学」の時間数を倍にしております。社会人としてのルールやマナー、求められるスキル等の時間を増やしております。

加藤委員：詳細な点検評価は素晴らしいと思いました。卒業生で鍼灸師会に入会している方はいらっしゃいますか。

前 田：入会している卒業生はおりますが、残念ながら数的には少ないのではないかと思います。

加藤委員：卒業生の開業状況は把握されていますか。

前 田：卒業生とのネットワークもあり、おおよそは把握しています。

藤森委員：学生の退学についてですが、学生の多様化に伴って、支援も複雑になってきていると思いますが、鍼灸業界は今後もロボットに代わられる業種ではなく、残っていくのではないかと思います。学生さんには頑張ってもらいたいと思います。

前 田：なくなっていく仕事ではない、国家資格、手に職をとということで入学する方もいらっしゃいます。国家資格を取ることが最優先ではありますが、技術とコミュニケーション能力がすごく大切な仕事だと思います。

横山委員：このような良い機会を頂き、本日はありがとうございました。

藤森委員：ＡＩが登場し、先生方の業務も効率化できると思いますが、今後学校としてどのように進めてい

かれるのでしょうか。

黒 田：学内で広報DX・教育DX・就職DXに関する委員会がありますが、広報DXを最初に取り入れデータ分析等を行っています。本校に興味を持たれた方が資料請求をされ、ホームページにアクセスし、来校の有無についての情報分析をしています。教育では、学生さん一人ひとりの出席や成績状況等データを一元化して、その情報をもとに学生指導をしています。

本日はお忙しいところ、ご出席賜りましてありがとうございました。

次回の委員会は2026年2月を予定しております。

以上